

芸 術

[音 楽]

1 学習指導の改善・充実

(1) 学習指導の改善・充実の視点

学習指導要領では、全ての教科等で思考力・判断力・表現力等の育成が主要課題となっている。音楽科においては、指導のねらいや手立てを明確にし、生徒が感性を高め、思考・判断し、表現する一連の過程を重視した学習指導を行うことが大切である。

(2) 効果的な学習指導

音楽の特性に即した思考力・判断力・表現力を育成するために、各領域においては下記のポイントを踏まえた学習指導を展開することが効果的である。

①	<u>表現領域</u>	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特性や雰囲気を感じ受することを学習の支えとしながら、音楽表現を工夫し、必要な技能を身に付け、どのように表すかについて思いや意図をもつことができるような学習過程を大切にする。
②	<u>鑑賞領域</u>	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特性や雰囲気を感じ受することを学習の支えとしながら、音楽を解釈したり価値を考えたりする学習過程を大切にする。
③	<u>言語活動の充実</u>	①②の指導を行う際、知覚した音楽の構造を音楽用語で表し、感受したイメージを抽象的な言葉や比喩的な表現で表したり、それらについて生徒同士で発表し合ったり、討論し合うなどの活動を適切に取り入れることにより、表現や鑑賞の学習を充実させる。

2 評価方法の改善・充実

(1) 学習評価の基本的な考え方

学習指導要領の趣旨を生かした学習指導を行い、生徒一人一人の学習状況を適切に評価するために、評価の観点を「音楽への関心・意欲・態度」、「音楽表現の創意工夫」、「音楽表現の技能」及び「鑑賞の能力」の4つとした。学習評価は常に学習指導と表裏一体の関係にあるため、指導内容と評価の観点との整合性を図ることが大切である。下図は、学習指導と学習評価の関連をイメージ化したものである。

	表現領域の学習のポイント		鑑賞領域の学習のポイント
学習指導	知覚と感受を学習の支えとして……………① 音楽表現を工夫し……………② 必要な技能を身に付け……………③ どのように表すかについて思いや意図をもち……………④ 歌唱、器楽、創作で表す……………⑤	⇔	知覚と感受の学習を支えとして……………① 音楽を解釈し、価値などを考え、判断して……………⑥ よさや美しさなどを味わって聴く……………⑦
学習評価	音楽表現の技能 ←→ 音楽表現の創意工夫 ③創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け ⑤創造的に表している	⇔	鑑賞の能力 ①音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じ受しながら ⑥解釈したり価値を考えたりして ⑦音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている
	①音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じ受しながら ②音楽表現を工夫し ④表現意図をもっている ……音楽的 ^な 思考…判断…表現に深く関わる観点…		
	音楽への関心・意欲・態度		
	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に対する関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。		

(2) 学習指導における配慮事項

学習評価を行うに当たっては、楽しく充実した音楽活動を妨げたり、評価活動が教師の過度な負担となったりしないように留意する必要がある。したがって、生徒の状況を把握し、結果を記録に残す評価の場面等を精選することが重要である。そこで、題材における学習全体の中で、どの「観点」のどのような「評価規準」を設定し、学習活動のどこに位置付けるか、さらに、どの「評価方法（観察、ワークシート、演奏、作品など）」を用いて実現状況を把握するかを十分に検討する必要がある。

3 学習評価の具体例

(1) 評価計画の例

題材名	ことばの美しさを大切にしながら、合唱の響きを味わおう（音楽Ⅰ）				
教材	「花の街」（中田喜直作曲、江間章子作詞） 「春に」（木下牧子作曲、谷川俊太郎作詞） 「夢みたものは……」（木下牧子作曲、立原道造作詞）				
題材の目標	日本語の詩で作曲された声楽曲の曲想を、歌詞の内容や楽曲の背景、ことばのもつ音声や音韻の美しさと関わらせて感じ取り、詩そのものに内在する音楽的な響きを意識しながらイメージをもって歌ったり、作曲家及び演奏者による表現の特徴などを理解して味わって聴いたりする。				
対応する学習指導要領の指導事項	「A表現」(1) 歌唱 ア 曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うこと。 ウ 様々な表現形態による歌唱の特徴を生かし、表現を工夫して歌うこと。 エ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して歌うこと。 「B鑑賞」 ア 声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを感じ取って鑑賞すること。 イ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して鑑賞すること。				
【評価規準の設定】					
題材全体の学習指導		評価の位置付け			
時	主な学習活動の展開	評価の観点、評価規準			
		音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
1	「花の街」の曲想や歌詞の内容、ことばのもつ響きなどに関心をもつ。	①「花の街」の曲想と歌詞が表す情景や心情、楽曲の背景との関わり、曲想を生み出している音楽的な特徴やことばのもつ響きに関心を持ち、歌ったり鑑賞したりする学習に主体的に取り組もうとしている。			
2	「春に」の音楽を形づくっている要素を知覚・感受する。		①「春に」のリズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受している。		
3	前時までの学習を生かし、「春に」の歌唱表現を創意工夫する。	②「春に」の曲想と歌詞が表す情景や心情、楽曲の背景との関わりなどに関心を持ち、詩そのものに内在する音楽的な響きに気付きながら、イメージをもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	②知覚・感受しながら、「春に」の曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取り、楽曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて表現意図をもっている。		
4	「春に」を小アンサンブルで合唱し、互いに聴き合う。		③知覚・感受しながら、小アンサンブルを生かした音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて表現意図をもっている。	①「春に」の曲想を歌詞や楽曲の背景と関わらせて感じ取り、イメージをもって音楽表現をするために必要な発声、日本語の発音、呼吸法、読譜などの技能を身に付け、創造的に表している。	
5	「夢みたものは……」の特徴を捉え、批評文を書き、鑑賞を深める。	③声の音色の特徴と表現上の効果との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。			①「夢みたものは……」のリズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、声の音色の特徴と表現上の効果との関わりを感じ取って、楽曲や演奏を解釈したり、自分にとっての楽曲や演奏の価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。

(2) 評価の実際

ここでは、本事例の中から、第1時の「音楽への関心・意欲・態度」、第3時の「音楽表現の創意工夫」、第4時の「音楽表現の技能」それぞれの評価例を取り上げて、評価の実際について述べる。

【第1時の「音楽への関心・意欲・態度」の評価】

- 評価方法及び「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント

〈観察〉	〈ワークシートI〉
話し合う場面や意見交換する場面において、「花の街」の曲想と歌詞の内容や楽曲の背景との関わり、曲想を生み出している音楽的な特徴やことばのもつ響きなどについて、自ら発言をしたり、他者の発言を聞き、それに対して反応をしたりしているか。	曲想と歌詞の内容や楽曲の背景との関わり、曲想を生み出している音楽的な特徴（リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱など）やことばのもつ響きなどについて書いているか。

※全ての生徒の発言内容を確認することは難しいので、他者の発言に対する反応の様子を観察することも含めて、学習内容への関心や意欲などを見取るとともに、〈観察〉と〈ワークシートI〉を組み合わせる評価をする。

- 「十分満足できる」状況（A）の例

「花の街」の曲想と歌詞の内容や楽曲の背景との関わり、曲想を生み出している音楽的な特徴やことばのもつ響きなどについて、自分が感じ取ったことや考えたことを他者に伝えようと発言をしたり、他者の発言を集中して聞き、それを基に自分との共通点や相違点を述べたりして、話し合いの学習を深めようとしている状況が見られるとともに、〈ワークシートI〉の記述例のように、自分なりの考えを具体的に書くなど、主体的に学習に取り組んでいることが読み取れる場合は「十分満足できる」状況と判断される。

〈ワークシートI〉の記述例

曲想が色彩感にあふれ、華やかで希望に満ちているが、どこか悲しい感じがするのは、幻想的な風景描写と不安な気持ちを表している歌詞であることと、強弱や細かな抑揚とリズムの変化などで気持ちが揺さぶられるような旋律で歌われるからです。

★指導の工夫例

導入時では、生徒が親しみながら「花の街」を歌ったり聴いたりして、美しい日本語の歌曲に親しむことのできるような雰囲気を大切にする。また、感じたことや考えたことを自由に話し合い、学習を進めるにつれて、曲想、歌詞の内容、楽曲の背景、曲想を生み出している音楽的な特徴、日本語の詩のもつ響きに対する興味・関心が深まっていくように指導を工夫する。

【第3時の「音楽表現の創意工夫」の評価】

- 評価方法及び「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント

〈ワークシートII〉
「春に」の曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取ったことを基にして、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱などに触れながら、自分はどのように歌いたいかの表現意図について、〈ワークシートII〉に書いているか。

- 「十分満足できる」状況（A）の例

〈ワークシートII〉の記述例は、曲想や歌詞の内容を基に、詩そのものに内在する音楽的な響きに気付き、旋律におけるフレーズのまとまりやリズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱などについて、自分はどのように歌いたいか明確に書かれているので「十分満足できる」状況と判断される。

〈ワークシートII〉の記述例

冒頭の「この気持ちはなんだろう」は、春に対するあこがれや期待の気持ちと、新しい世界への不安な気持ちを表しているような感じの歌詞と音楽なので、もどかしいような、もやもやしたイメージのmpで歌い、「心のダムにせきとめられ」は、それまで声部間で交錯していた歌詞や旋律が一つにまとまる部分なので、豊かなfで大きなエネルギーを感じるように歌いたい。また、様々な感情をいろいろなことばで表現しているので、ことばの語感と響きを大切にして、訴えかけるように発音したい。

★指導の工夫例

〈ワークシートII〉に書いた内容を手掛かりにさせるとともに、特につまづきが見られる生徒については、楽曲の一部分に絞って様々な音楽表現を試行錯誤させて、自分なりの表現意図をもつことができるように促す。

【第4時の「音楽表現の技能」の評価】

- 評価方法及び「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント

〈演奏（歌唱）〉
歌詞の内容や曲想を生かした、「春に」にふさわしい音楽表現をするために必要な、発声、日本語の発音、呼吸法、読譜などの技能について学習した内容が歌に表れているか。

- 「十分満足できる」状況（A）の例

歌詞の内容や曲想を生かした、「春に」にふさわしい音楽表現をするために必要な、発声、日本語の発音、呼吸法、読譜などの技能について学習した内容が、特に表情豊かな歌として創造的に表れて深まりが見られる場合は「十分満足できる」状況と判断される。

★指導の工夫例

「花の街」を歌うときにどのような点を工夫したかを想起させるなど、これまでの題材の学習の中から表現のヒントを見いだすように伝える。また、他グループの演奏を能動的に聴き、自分の表現に生かすように指導する。

【美術・工芸】

1 学習指導の改善・充実

(1) 学習指導の改善・充実の視点

美術・工芸では、創造する楽しさを感じるとともに、思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育て、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関

心をもち、生涯にわたり主体的にかかわっていく態度を育むことを重視した学習指導が求められている。

(2) 効果的な学習指導

指導にあたっては、各学校段階の内容の連続性に配慮し、育成する資質や能力と学習内容との関係を明確にし、創造性を育む造形体験の充実を図りながら、形や色などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と豊かにかかわる態度を育み、生活を美しく豊かにする造形や美術の働きを実感させるような指導が重視されている。

2 評価方法の改善・充実

(1) 学習評価の基本的な考え方

学習指導要領では、きめの細かい学習指導の充実と生徒一人一人の学習内容の確実な定着を図るために、各教科・科目における生徒の学習状況を分析的に捉える観点別学習状況の評価と総括的に捉える評定とを、目標に準拠した評価として実施することとされている。美術・工芸科の評価における4つの観点及びその趣旨は、以下のとおりである。

(美術科の評価の4観 points の趣旨)

美術への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
美術の創造活動の喜びを味わい、美術や美術文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表している。	美術や美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。

(工芸科の評価の4観 points の趣旨)

工芸への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
工芸の創造活動の喜びを味わい、工芸や工芸の伝統と文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、心豊かな発想をし、よさや美しさなどを考え制作の構想を練っている。	創造的な工芸の制作をするために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表している。	工芸や工芸の伝統と文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。

(2) 学習評価における配慮事項

学習評価は、学習指導と一体的に行うことにより、生徒に学習内容の確実な定着を図るとともに、授業の改善に寄与するものである。基礎的・基本的な知識・技能に加え、思考力・判断力・表現力等と主体的に学習に取り組む態度に関する観点についても評価を行うなど、観点別学習状況の評価の充実を図り、きめの細かい学習指導と生徒一人一人の学習の確実な定着を図っていく必要がある。

3 学習評価の具体例

(1) 評価計画の例

題材名	「私の居場所」 「A表現(1) 絵画・彫刻」 「B鑑賞」
題材の目標	私と居場所というテーマを基に、自己の内面を深く見つめ、主題を生成し、造形的な効果を生かし創造的に表現するとともに、他の生徒の作品から作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わう。
対応する学習指導要領の指導事項	「A 表現(1) 絵画・彫刻」 ア 感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成すること。 イ 表現形式の特性を生かし、形体、色彩、構成などを工夫して創造的な表現の構想を練ること。 } 【発想や構想の能力】 ウ 意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。 } 【創造的な技能】 エ 表現方法を工夫し、主題を追求して表現すること。 「B 鑑賞」 ア 美術作品などのよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、理解を深めること。 【鑑賞の能力】

て草書、隸書及び篆書も加えられる。さらに立体への視点を重視し、「篆刻・刻字等を扱うよう配慮する」ものとしている。また、文房四宝の歴史や文化的価値についても配慮しつつ、書に関する、知的財産権を尊重する態度の育成や、制作過程や鑑賞において言語活動の充実にも重点をおく必要がある。

2 評価方法の改善・充実

(1) 学習評価の基本的な考え方

学習指導要領では、きめの細かい学習指導の充実と生徒一人一人の学習内容の確実な定着を図るために、各教科・科目における生徒の学習状況を分析的に捉える観点別学習状況の評価と総括的に捉える評定とを、目標に準拠した評価として実施することとされている。書道における評価の観点は、「書への関心・意欲・態度」「書表現の構想と工夫」「創造的な書表現の技能」「鑑賞の能力」の4つとしている。

(2) 学習評価における配慮事項

学習指導と学習評価を一体的に行うことにより、生徒一人一人に学習内容の確実な定着を図るとともに、学習評価を指導の改善につなげることが重要である。評価方法については、学習場面や、発達段階に応じて生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選択する必要がある。学習評価を行う際にはできるだけ多くの情報を集め、多様な観点で評価を行うことが重要であるが、評価に追われてしまわないよう留意することも大切である。

3 学習評価の具体例

(1) 評価計画の例

単元名	漢字仮名交じりの書 ～多様な名筆を生かした調和を目指して～			
単元の目標	漢字仮名交じりの書の表現と鑑賞を通して、感性を働かせながら創造的な表現の能力を高める。			
対応する学習指導要領の指導事項	「A 表現（1）」 イ 漢字と仮名の調和した線質の表し方を取得すること。 エ 名筆を生かした表現を理解し、工夫すること。 オ 目的や用途に即した形式、意図に基づく表現を工夫すること。 「B 鑑賞」 ウ 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解すること。 エ 漢字の書体の変遷、仮名の成立等を理解すること。			
単元の評価規準	書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
「評価規準に盛り込むべき事項」を基に作成	表現 書の伝統と文化を尊重し主体的、創造的に「多様な名筆」を取り扱った漢字仮名交じりの書の学習に取り組もうとする。 鑑賞 漢字仮名交じりの書の伝統と文化について関心をもち、書のよさや美しさを感じ取り、主体的に鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	「多様な名筆」の書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら調和させ、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、「多様な名筆」の書の効果的な表現の技能を身に付け表している。	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、「多様な名筆」の書のよさや美しさを創造的に味わっている。
学習活動に即した評価規準 「評価規準の設定例」を基に作成	①書の伝統と文化を尊重している。 ②主体的、創造的に漢字仮名交じりの書の学習に取り組んでいる。 ③漢字仮名交じりの書を理解し、尊重する態度が身に付いている。 ④「多様な名筆」の内容や特徴、表現様式を理解している。	①「多様な名筆」の書表現の諸要素を感受している。 ②感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	①「多様な名筆」の効果的な表現の技能を身に付けている。 ②多様な運筆・用筆を習得し、様々な線質を表現している。 ③自発的な意図に基づいて、全体構成や字形、線質、墨色などを工夫し、創造的な表現をしている。	①文字や書の伝統文化について理解を深め、その価値を考えている。 ②「多様な名筆」のよさや美しさを創造的に味わっている。

(2) 評価の実際 (4、5時間目／6時間扱い)

時間	学習のねらい、学習活動 *「●」は、学習のねらい 「○」は、学習活動	学習活動に即した 評価基準				評価方法、留意点等
		関	構	技	鑑	
4・5	<p>●生徒一人一人が、自らの意図に基づいて構想し、幅広い技能を身に付け、表現することができる。</p> <p>○多様な名筆を鑑賞し漢字と仮名の調和と書表現の諸要素を踏まえ、そのよさや美しさを感じ取る。</p> <p>○「蓬莱切」を土台とし、漢字と仮名の調和を図り、多様な名筆の文字を活用した作品を構想する。</p> <p>○「蓬莱切」を土台とした草稿活動を通じ、自己の意図に基づいた書表現の諸要素(字形、線質、墨色など)を生かして、表現する技能を身に付ける。</p>		関②	鑑②		<p>・名筆について関心をもち、漢字と仮名の文字や字形について工夫し自己の意図に基づいて意欲的、主体的に表現しようとしている。</p> <p>・多様な名筆に着目させ書表現の諸要素を根拠とした書のよさや美しさを感じ取っている。[ワークシート]</p> <p>・自己の意図に基づき、多様な名筆を活用し、調和が取れた作品を構想している。[観察、作品]</p> <p>・多様な名筆における書表現の諸要素が、自らの意図に基づいた作品制作に関わることを理解し、表現を工夫している。[ワークシート、作品、自己評価]</p>

(3) 評価の具体例

観点 生徒名	書への関心・意欲・態度		書表現の構想と工夫		創造的な書表現の技能		鑑賞の能力	
	学習活動に即した 評価基準	評価	学習活動に即した 評価基準	評価	学習活動に即した 評価基準	評価	学習活動に即した 評価基準	評価
	④		①		①		②	
あ	B	B	A	A	B	B	A	A
い	A	A	B	B	C	C	C	C
う	C	C	C	C	A	A	B	B
え	B	B	B	B	B	B	A	A

4 その他

(1) 名筆の取扱いについて

名筆とは、日本及び中国の優れた書をいい、漢字の書における古典、仮名の書における古筆、加えて、近現代までの優れた書全体を指している。名筆の選択においては、生徒の状況も十分考慮すべきであり、名筆を通して、書の伝統と文化についての理解を深めさせるとともに、表現を工夫する一助としたい。特に、導入に当たっては漢字と仮名が自然と調和するよう名筆の選択や取扱いに配慮が必要である。

(2) 観点別評価の留意事項

ワークシート、学習カード、自己評価シートなど、それぞれの学習場面において生徒の状況を的確に評価できる方法を選択することが必要である。また、観点別評価において「努力を要する」状況(C)と判断した生徒には、次のような指導の手立てが考えられる。

学習活動に即した基準	手 立 て
関② 主体的、創造的に漢字仮名交じりの書の学習に取り組んでいる。	参考とする名筆の特徴を捉え、構想から完成に至ることの大切さを促し、構想の柱を示し、確認するようにする。
構① 「多様な名筆」の書表現の諸要素を感受している。	参考とする名筆のよさや美しさの捉え方を指導し、それを感じ取ることを知ること、作品を構想し自分の表現活動に生かすようにする。
技① 「多様な名筆」の効果的な表現の技能を身につけている。	参考とする名筆、あるいはその他多様な名筆の特性や用筆法を理解し、自らの表現する技能を確認し表すようにする。
鑑② 「多様な名筆」のよさや美しさを創造的に味わっている	参考とする名筆のよさを鑑賞し感じ取り、自分の表現の意図を明らかにし、意欲的に取り組むように促す。